

## SGEPSS 波動分科会活動報告

波動分科会では、地球、惑星、太陽系等で広範な周波数範囲で生起する波動現象に関して、伝搬、観測、データ解析、計測法、観測装置設計、シミュレーション、センサー、リモートセンシング、地下探査等の他、非線型現象を含む波動に関連する現象を扱っている。また、波動関連の他分野との連携も行っている。研究会では、中心になるテーマの招待講演のほか、通常の講演を含めて、原則として一人30分以上は割り当てて、ゆっくり議論できる場を提供してきた。以下に、前回報告以降の研究会の概要を紹介する。予稿はホームページで公開されている。

(<http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/wave/wave08>)

第8回 2004年1月28日(水)から29日(木)

京都大学宙空電波科学研究センター

粒子によって波動が作られたのではなく、波動が放射線帯の形成に重要な役割を果たしていることが明らかになりつつある。そこで「放射線帯における波動の重要性」をテーマとした下記の招待講演の他、3件の一般講演が行われ、活発な議論がなされた。

小原隆博 (通信総合研究所) 電子放射線帯変動における波動の役割

笠原禎也 (金沢大学) 磁気嵐における放射線帯粒子とVLF波動の関係について

三好由純 (名古屋大学 STE) 内部磁気圏高エネルギー粒子のモデリング

D. Summers (名古屋大学 STE) The role of whistlers in accelerating electrons in the magnetosphere.

大村善治 (京都大学 RASC) コーラス放射のメカニズムと相対論的粒子加速について

(橋本弘藏, 森岡昭, 長野勇)